

平成 18 年 9 月 6 日

1 号機原子炉建屋室内におけるダスト放射線モニタ指示値の上昇の 調査結果について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

当所 1 号機は、平成 18 年 7 月 24 日より調整運転中ですが、8 月 21 日頃から原子炉建屋 2 階原子炉冷却材浄化系ポンプ*¹ (A) 室内に設置しているダスト放射線モニタ*² の指示値に緩やかな上昇傾向を確認したため、調査を行っていたところ、8 月 23 日午後 6 時 30 分頃、原子炉冷却材浄化系ポンプ (A) の入口配管接続部からの微量な水のにじみを確認しました。これによる外部への放射能の影響はありません。
(8 月 24 日お知らせ済み)

当該ポンプ (A) を停止し隔離した後、当該部を調査したところ、当該部を構成しているガスケット*³ 2 枚とスペーサ*⁴ のうち下流側のガスケットが配管との接触面に対して若干下にずれて取り付けられていることを確認しました。また、当該部については、前回の定期検査時に分解点検を行っていることを確認しました。

このことから原因は、前回の定期検査時に当該ガスケットを取り付けた際、ガスケットを配管との接触面に対して若干下にずれた状態で取り付けたため、配管の接触面との当たり幅が小さくなり、その後の運転時にこの部分に水圧がかかったことで水がにじみ出たものと推定しました。

対策として、当該部と同様の部位のガスケットを取り付ける際は、スペーサにガスケットをテープ等にて仮止めで固定した上で、配管との接触面の中心に取り付けることとし、これを作業要領書に反映します。

なお、当該部のガスケットについては、全て新品に交換し、ダスト放射線モニタの指示値が通常値に復旧したことを確認しました。

以 上

* 1 : 原子炉冷却材浄化系ポンプ

原子炉水中の不純物を除去し水質を維持する浄化系のポンプ。

* 2 : ダスト放射線モニタ

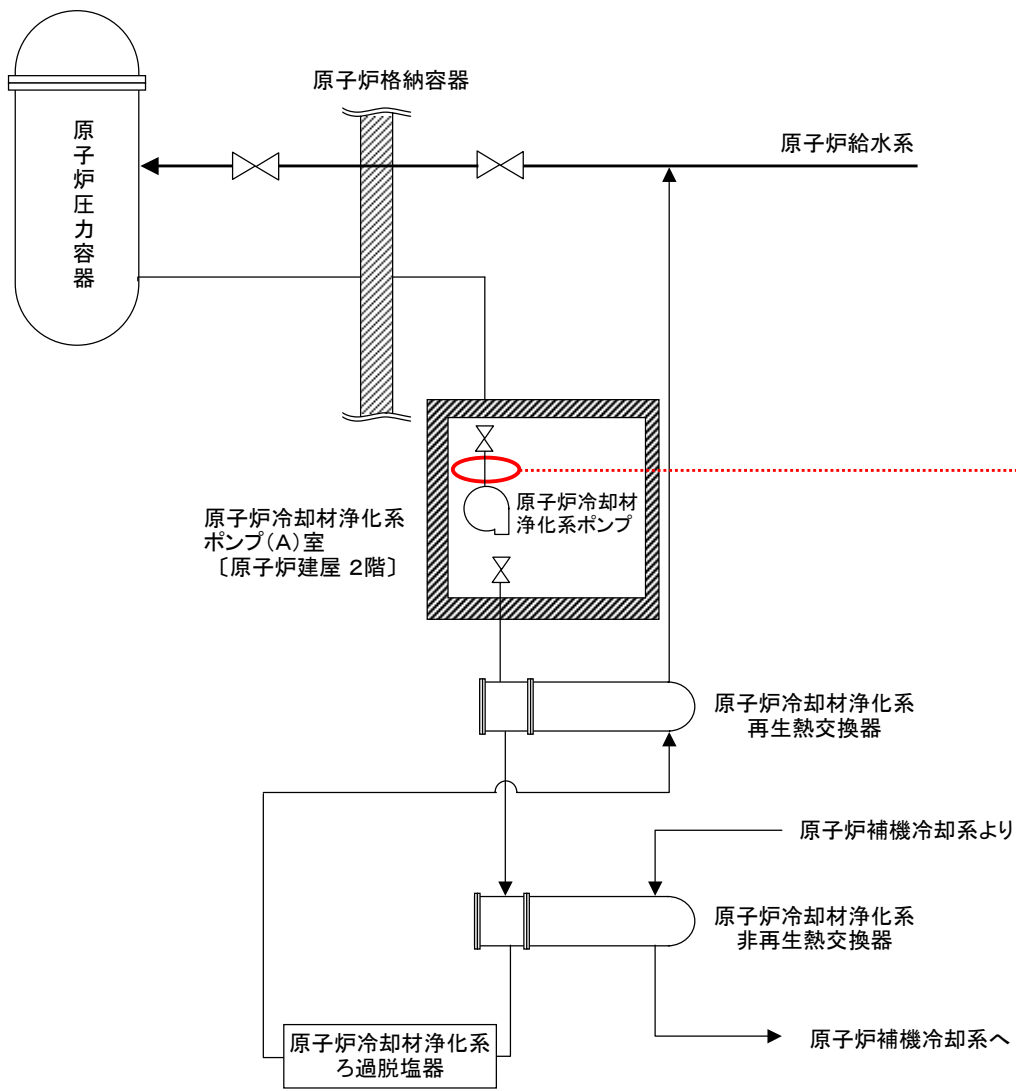
当該エリアの空気中の塵を集め、含まれている放射能を測定している計測器。

* 3 : ガスケット

配管接続部からの冷却材の漏えいを防止するためのドーナツ型のもので、配管接続部内のスペーサの上流側と下流側それぞれに取り付けるもの。

* 4 : スペーサ

配管接続部内の寸法をあわせるために取り付けられるドーナツ型のステンレス製の板。一部が配管接続部の上部に出ることから、取り付け後に位置を調整することができる。



1号機 原子炉冷却材浄化系 概略図

